

■佐々友房 教育家、政治家。反維新政府・国権論の立場から学校設立後、政界に進出、対外強硬を主張し続け、早世した。

さっさともふさ

開国開港・・・1854＝ 肥後国内坪井の横井小楠と向かいの家で、熊本細川藩士御小姓組佐々陸助の三男に生まれる。

桜田門外変・1860＝ 6歳：

遣欧使節・・・1861＝ 7歳：藩校〔時習館〕に入学、

8月18日政変 1863＝ 9歳：

__尊皇攘夷を謳い、

明治維新・・・1868＝14歳：

戊辰戦争終・1869＝15歳：〔時習館〕の居寮生となる。

初の日刊新聞1870＝16歳：藩政改革で〔時習館〕が廃止され、林桜園の〔原道館〕に入塾したほか、河上彦斎・大田黒伴雄らの〔春日寺塾〕や〔国友塾〕〔桜田塾〕にも名を連ね、

学問のすすめ1872＝18歳：

明治6年政変 1873＝19歳：__兄干城の名を借りて、私塾〔惜陰舎〕を開く。

佐賀の乱・・・1874＝20歳：__江藤新平の佐賀の乱に呼应しようとして、先輩から軽拳を注意され未遂、続いて台湾征伐に義勇隊を編成するも、和議となって未遂後、命じられて、白川県に出仕するも直ぐに辞め、

初の民間工場1875＝21歳：__上京。明治天皇侍従だった叔父の家に寄寓し、藤田東湖を慕い、水戸に遊学。副島種臣らの知遇をうけ、三つの反乱・1876＝22歳：__帰郷して、新政府批判の「時勢論」を書き、郷友池辺吉十郎に贈る。神風連の乱には、各郷党リーダーに連絡をとって、進退誤り無いよう手配。

西南戦争・・・1877＝23歳：__池辺と鹿児島に赴いて西郷隆盛に挙兵を促し、西南戦争が始まると熊本隊を組織して参加、懲役10年の刑に処せられたが、

・・・1880＝26歳：__特赦放免され、「戦砲日記」を著わす。同志と図って、熊本に儒教主義教育の学校〔同心学舎〕を開校。

明治14年政変1881＝27歳：__校舎新築を機に〔同心学校〕と改称する一方、各派を説得し民権論に対抗する新政党〔紫溟会〕を結成、

新体詩抄・・・1882＝28歳：__〔同心学校〕を基に、〔紫溟会〕の教育部門〔済々黌〕を設立。天皇主権の国権論を主張して、

岩倉具視没・1883＝29歳：__御下賜金を受け、旧細川藩主からの寄付もあって財政基盤が確立。

秩父事件・・・1884＝30歳：〔紫溟学会〕と改称。

帝国大学始・1886＝32歳：__以後、井上馨・大隈重信両外相の条約改正案反対運動に参加し、

国民之友始・1887＝33歳：森有礼文相が視察に訪れる。__2代黌長に就任。私立学校初の徴兵猶予の恩典。

初の対等条約1888＝34歳：〔済々黌〕付属女子学校を設立。

帝国憲法発布1889＝35歳：__〔熊本国権党〕を結成して副総理となり、黌長を辞して、政界進出のために、上京。

帝国議会始・1890＝36歳：__以後、衆院議員に9回連続当選。

大本教・・・1892＝38歳：国民協会、

郡司千島探検1893＝39歳：大日本協会を組織、

日清戦争始・1894＝40歳：

Bushidou・・・1899＝45歳：__〔帝国党〕を結成して、委員長となり、

日比谷公園・1903＝49歳：__頭山満・神鞭知常らと〔対露同志会〕を結成、

日露戦争終・1905＝51歳：__〔大同倶楽部〕の結成に尽力して、

満鉄発足・・・1906＝52歳：__没した。